

山崎純男様

私は、山崎バスケットが好きで 以前からことあるごとに、試合に出掛けています。  
今年も期待をしつつ、長崎・熊本と応援に行きました。  
そして、今回のインターハイの結果を新聞で見て、やっぱりか と肩を落としました。

なぜ このように言うか・・・数年前までのチームは、楽しみがありました。  
見ている面白く、ぞくぞくしながらそして凄いなと思いながら見ていました。  
ところが、ここ2～3年 山崎バスケットは見られません、ディフェンスはしない、  
シュートブロックばかり狙っている、オフェンスも何かしてくれると思っても、外角の  
スリーポイントシュートのみ、どんな相手にもまったくいっしょ。  
先生の試合結果報告を読んでも、選手に対する愚痴の様なことばかりが多くがっかりです。

もっと、残念に思うのは アメリカ遠征です、高いお金を使って本当に効果があったので  
すか？ 家族は大変のようですよ。 先生には言えないと思いますが。  
もう一つ言わせて貰えば、今回のアメリカチームの受入れ、本当に選手が喜んでいるで  
しょうか、先生の見栄・独りよがり・大野だけのため等ではないですか。  
しかも、金を取ってクリニックをする、それを遠征費に当てる、なんたることか！

先生の回りの人は、本当に本気で協力しようと思っているのでしょうか？ 疑問です。  
私も、その内の一人、このアメリカチーム受入れは、県・市バスケットボール協会の人  
はどれだけの人が、楽しみにしてみんな協力体制を作っているのでしょうか。  
作ってなければ、絶対に作るべきだと思います。なぜ、作れないのでしょうか？

最後に、もう一回 先生の最高のチームを創って下さい。期待しています。

先生 **初心に戻ってください** お願いします。

自分を見直してください。

山崎バスケットのファンより

上記の文書は、3年前に私宛に郵送されてきた文書のコピー（原文そのまま）です。

2000年8月10日 12時-13時投函 長崎中央郵便局管内 差出人不明

そして今回、3年ぶりに次ページの文書が郵送されて来ました。

2003年8月10日 12時-18時投函 長崎北郵便局管内 差出人不明

人それぞれ、様々な思いを持ってスポーツを見、コーチを見、チームを見、選手を見  
ています。歳を経る毎にさまざまな相談事が増えてきますが、時々こんな文書が舞い込  
んだりするんだということも紹介しておきたかったので添付しました。

# 「本当に良かった」男の意地結実

長崎南山柔道団体チームのゆめ総体が終わった瞬間、森重昭憲監督(55)は「ふうー」と大きなため息をついた。こみ上げてくるものを抑えるようにしばらく天を見上げた。地元総体でつかんだインターハイ初入賞。指導者になってから30年余り、初出場から22年が過ぎた。髪はすっかり白くなった。「本当に良かった」。ペテラン指揮官は目じりにしわを寄せた。長崎北の1期生。高2から柔道を始めた。新設校だったたて武道場などの施設はなく、土のグラウンドで練習した。1972年に長崎大教育学部を卒業、長崎南山の教員に。現役時代の輝かしいキャリアはない。「だから私は柔道のエリートではない」。他校のけいこなどを見て指導法を模索する日々が続いた。



県南地区出身選手だけのチームを率いて本県柔道勢初のインターハイ3位を勝ち取った長崎南山の森重昭憲監督

## 森重監督 地元選手育で「銅」勝ち取る

有望なジュニア選手の県外流出などにも悩んだ。全国各地のトップ選手をスカウトで集めた名門校に太刀打ちできなかつた。かといって同じこととはしたくない。「地元」の選手を強くして入賞したい。男の意地と夢だった。長崎市内や同市周辺町の選手だけのチームで勝ち取った国士館(東京)、世田谷学園(同)に続く3位。南山チームだけの財源ではない。「長崎にいても勝てることを証明したかった。本県の若い指導者たちに対するエールでもある。(堀江)

## 山崎純男先生

こんな先生方がいらっしやいます。本当に残念です、なぜ外人を入れたのですか？最初に優勝された時は、県外の選手はいなかったではないですか！！先生しっかりして下さい。



〒851-0115

長崎市かき道 3-17-10

山崎純男様

長崎ゆめ総体男子バレーボールで本県男子として初優勝を飾った大村工高監督の

伊藤 孝浩さん

「自分の地元の島原で、本県勢同士の決勝で優勝でき、感無量。いろいろな人にお世話になりました」。大村工高に赴任して十年目。悲願の日本一を出身地であった長崎ゆめ総体で勝ち取り、言葉を詰まらせた。



## 時々の顔

いつときに自主的に考え、逃げない強い選手が育つ。これまででは、一九九八年の全国高校バレーボール選抜優勝大会(春の高校バレー)を筆頭に、高さや攻撃力がある好選手をそろえながら、全国八強が最高成績

## 練習厳しく試合楽しく

「小さなチームで勝つにはしつこさしかない。個性を生かして自分の責任の取り方を徹底して指導した。この一年は練習の厳しさに選手も驚いたと思うが、選手たちはつぶれず、よくついてきてくれた」と目頭を熱く拭いた。欣喜の胸上げでは、選手たちの手で宙に舞った後、床に落とされる手荒い祝福を受けた。三十七歳。大村市上諏訪町の自宅に夫人と一男二女。